



常陽中学校だより

No.4 H26.6.24

六月の空の下、第三十三回体育大会を開催することができました。この時期には珍しく、好天に恵まれ、練習も順調に進めることができました。おかげで大きな怪我もなく成功裏に終えることができました。応援や観戦に来て下さったご来賓・保護者・地域の皆様ほんとうに有り難うございました。校舎の一階に写真を掲示しています。是非、ご覧下さい。

目は臆病だけど、手は熊手(6月2日の朝礼より)

中学生の一日は慌ただしいものです。授業が終わり、クラブ活動や習い事などでクタクタになって家に帰ります。それから食事、お風呂、そしてやっと机の前で勉強です。机の前に座ると宿題・予習・復習など課題が山積されています。あれもしなくては、これもしなくてはとあれこれ目移りして、そのうちに「あ〜あ、こんなに沢山できるわけない！」と投げ出してしまう人はいませんか？特にテスト前は計画を立てていても、気がつけばいつしか三日前。数学の勉強をし始めると理科が気になり、理科をし始めると社会・英語と次々と気になり、そのうちに頭を抱えて「ああ〜、もうダメだ」と悲惨な気持ちになってしまう人もいます。人間は目から入ってくる情報で悲観的になってしまうことが多いようです。

子どもの頃、私の家では米や野菜を作っていました。小学生の時、その手伝いをよくしていました。例えば、いちごや野菜などを植えている畑の畝の草取りを手伝うのですが、子どもにとって根気と体力のいる作業でした。私は集中力が続かずすぐに嫌になってしまいます。そんな時、私の母は「目は臆病だけど手は熊手」と言っていました。その意味はたくさん仕事を見るとウンザリしてしまうけれど、目の前の作業にだけ集中していると、いつしか仕事も終わってしまうということです。「始まりがあれば、必ず終わりがある」と私を諭してくれました。しんどい時はあれこれ余計なことを考えずに、目の前のことに集中しなさいと言うことです。このように、頭で考えているとできない理由をあれやこれやと一杯考えてしまうものですが、実際に手を動かしてみると、意外と簡単にできることが多いものです。みなさんも目の前のことに集中して一つ一つ確実に片付けていってください。

阪神地区技術・家庭科研究授業(6月23日の朝礼より)

19日(木)本校で阪神地区技術・家庭科研究協議会が開催されました。阪神の各中学校から技術・家庭科の先生方や教育委員会の方々が来られ、一年生1・2組の授業を参観されました。来賓の方の感想ですが、一年生はもちろんのこと、二・三年生の授業態度が素晴らしいと褒めていただきました。昨年までの目標は「静かに授業を受けられるようにしよう」でしたが、今年からは「他市の生徒に負けないような学力をつけよう」に変更しています。ただ、勉強をやり始めてもすぐに成績は上がりません。ここで諦めないで下さい。時間が掛かりますが、着実によい方向に向かっています。迷わずに努力を続けて下さい。必ず成果は出てきます。

トイレ掃除の会

六月二十一日(土)「西宮掃除に学ぶ会」の協力を得て、本校生徒・教師八十二名で全てのトイレを磨き上げました。この取り組みも四年目になりました。三つの教え、
●しゃべらない ●他人と比較しない ●両手を使う」を守り、自分と向き合いながら掃除に専念しました。おかげで臭いも随分なくなりました。気持ちよく使ってください。
参加してくれた人、本当にご苦労さまでした。家でも是非トイレをきれいにしてください。家族にもきつと喜ばれることでしょう。掃除や整理整頓ができる人は自分をさらに成長させることができます。将来、きつと活躍できます。これは間違いありません。

